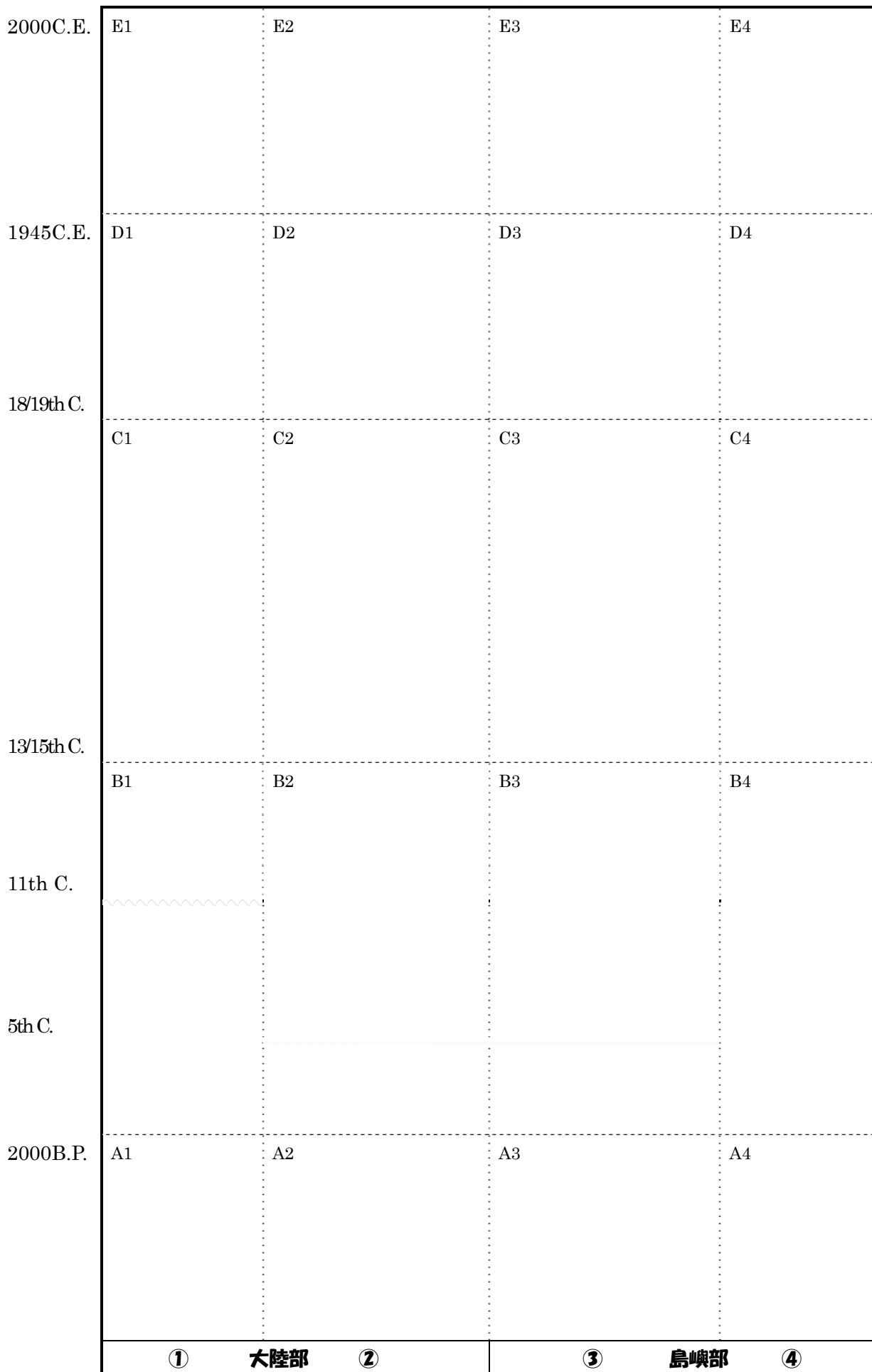


東南アジア史の超構造化



B.P.=Before Present, C.E.=Common Era

歴史を構造化するとは？

- ・ 時間・空間・社会による分節（メリハリ）を設ける。この講義では文化（宗教）を重視。
- ・ 東南アジア史全体をブロックに分け、ブロックを以下の時空間セット I~VII でくくる。
- ・ セットとは別に 3つのサブセットを設ける。
- ・ 各セットの特徴と画期となるできごとを把握する。
- ・ なお、言うまでもないことだが、各ブロックやセットが同じ色で均等に染まったわけではなく、おのずとグラデーションがあり、さらに時間と共に変化したことを忘れないで欲しい。

- | | |
|-----|-----------------------------------|
| I | 基層文化が卓越した地域・時代 (A1~A4+B4+C4) |
| | 初期国家の出現 (A2+A3 の末期、B2+B3 に先行する時代) |
| II | 「中国化」した地域・時代 (B1+C1) |
| III | 「インド化」した時代・地域 (B2 大陸部、B3 島嶼部) |
| IV | 上座仏教化した地域・時代 (C2) |
| V | イスラーム化した地域・時代 (C3) |
| | 「交易の時代」(C1~C4 を貫通する時代) |
| VI | 列強により植民地化された地域・時代 (D1~D4) |
| | 日本軍政期 (D1~D4 の末期) |
| VII | 国民国家形成の地域・時代 (E1~E4) |

I 基層文化が卓越した地域・時代 (A1~A4+B4+C4)

地域： 東南アジア全域。

時代： 紀元後 5 世紀前後まで。東西海上貿易の発展に応じて、土着の初期王国が出現。ただし、ベトナム北部は紀元前 2 世紀に中国に支配され、フィリピンは後代まで基層文化の時代が継続した。

概要： モンスーンの発見による東西海上交易ルートが確立するに応じて、中継拠点としての港市などの初期国家が形成された。さらに、東南アジアの金や香料・香薬・象牙・玳瑁などの熱帯産物の需要も増加。自称「大秦王安敦」（ローマ皇帝マルクス・アウレリウス）の使者の到来。

- ・ 扶南：1 世紀末、クメール人の王国。メコン川デルタ地域。シャム湾に位置する外港オケオ。
- ・ 林邑：2 世紀末、チャム人の王国。ベトナム中部。
- ・ その他、ビルマ南部にモン人の国家。マレー半島両岸にも港市。

特徴： 精霊信仰（アニミズム）が卓越。首長制社会。水稻耕作、焼畑農業。根菜農業。銅鼓。高床式住居。アウトリガー・カヌー。

補足： ベトナム北部は中国の支配に入り、「中国化」した。フィリピンではバランガイとよばれる首長社会がフィリピン南部のイスラーム化あるいはスペイン人到来まで継続した。

II 中国化した地域・時代 (B1+C1)

地域： ベトナム北部。

時代： B.C.111 年、漢の武帝は南越国を征討し、交趾、九真、日南を含む 9 郡を設置した。中国は、ここを經由して東南アジア（中国は「南海」と呼んでいた）の物産を得た。

概要： 1009 年、李太祖がリー（李）朝を創設し、中国から独立。1174 年に中国から安南国王の称号を受ける。13 世紀、チャン（陳）王朝は、元の攻撃を 3 度にわたって撃退し、民族意識が昂揚するが、14 世紀になって国力衰退。1407 年から 21 年間、明朝の支配下に入るが、レー（黎）朝が独立を回復（1428 年）。その後、北部のチン（鄭）氏、中南部のクアンナム政権の支配期を経て、タイソン反乱の後、南北を統一しフエに都をおいた

グエン（阮）朝（1802年）はベトナム（越南）を国号とした。

特徴： 「中国化」。10世紀まで中国により直接的に支配。11世紀の独立後はベトナム人自身が中国型の国家モデルを追求。中国系大乘仏教、儒教、道教。律令制度。漢字の導入。ベトナムは中国をモデルとした「小中華」帝国の形成を目指した。

補記： ベトナム中部・南部のチャム人（チャム人の王国連合の総称）は、「中国化」せずに「インド化」（さらにのちには「イスラーム化」）した。チャンパ（チャム人の王国連合の総称）は、15世紀にレー（黎）朝によって滅ぼされた。

III インド化した時代・地域（B2 大陸部、B3 島嶼部）

地域： ベトナム北部とフィリピンを除く東南アジアのほぼ全域（とくにインドシナ半島南部、大陸部の沿岸部、マレー半島を経てスマトラ島、ジャワ島にいたる地域）。

時代： 5世紀以降。

特徴： 「インド化」：インドによる直接支配ではなく、現地権力によるインド文化の受容。インド系文字（南インド系ブラーフミー文字）、ヒンドゥー教、大乘仏教、部派仏教（「小乗」仏教）、サンスクリット（の語彙）、ヒンドゥー叙事詩（ラーマーヤナ、マハーバーラタ）、王権思想、世界観、歴史観、建築、美術、芸能など。この地域はその後「上座仏教化」したが、インド的影響は残存している。

B2 大陸部

概要： クメール人の王国（真臘）

- ・ ジャヤヴァルマン2世（8世紀）：アンコールに王国を創建。
- ・ スーリヤヴァルマン2世（12世紀）：アンコール・ワットの建設。
- ・ ジャヤヴァルマン7世（在位1181頃～1218年頃）：アンコール・トムの建設。
- ・ モン人の王国：ドヴァーラヴァティ王国。チャオプラヤー川下流。
- ・ ピュー（驃）人の王国：エーヤーワディー川流域。
- ・ ビルマ人の王国：パガン朝（11世紀）。ピューの王国を吸収。

補足： ベトナム中部・南部ではチャム人が「インド化」した。パガン朝では大乘仏教と上座仏教が併存した

資料： 『真臘風土記』（13世紀末）

B3 島嶼部

概要： シュリーヴィジャヤ（7世紀半ば～11世紀）：スマトラ島東岸（マラッカ海峡）。

- ・ シャイレンドラ朝：ジャワ島中部。大乘仏教を信奉し、ボロブドゥール寺院を建造
- ・ マタラム王国：ジャワ島中部・東部（10世紀に移動）。ヒンドゥー教を信奉し、プランバナナ寺院を建造。
- ・ カディリ王国：ジャワ島東部。1006年頃、内乱で一時分裂するが、再統一。
- ・ シンガサリ王国：ジャワ島東部。13世紀。
- ・ マジャパヒト王国：ジャワ島東部。シンガサリ王国の後継者。元軍を撃退して成立。東南アジア島嶼部の大部分を影響力をもった。宰相ガジャマダのもとラージャサナガラ王の時期（14世紀中葉）が最盛期。

資料： 義浄『南海寄帰内法伝』（7世紀末～8世紀初）

IV 上座仏教化した地域・時代（C2）

地域： 東南アジア大陸部（ベトナムを除く）ほぼ全域

時代： 13世紀以降（現代まで）。ただし、ビルマでは11～13世紀にパガン朝が上座仏教を信奉していた。

概要： ビルマ以外の大陸部では「タイ系」諸民族の国々があいついで勃興

- ・ スコータイ王国（13世紀後半～1438年）：チャオプラヤー川上流支流。タイ文化の源泉とみなされる。アユタヤに併合される。
- ・ アユタヤ王国（1351～1767年）：チャオプラヤー川下流域。アンコールを侵攻しクメール人の王国を破る（クメール人はプノンペンに遷都（1434年）、上座仏教化する）。ラーンサーン王国（1353年建国）：ラオ人（「タイ系」）の王国。メコン川流域。
- ・ タウンゲー王国（1486～1752年）：ビルマ人による統一政権。アユタヤ征服に成功（1569年）。
- ・ コンバウン王国（1752-1885年）：ビルマ人による統一政権。
- ・ ペゲー王国（14世紀～1539年）：モン人の王国。下ビルマ。
- ・ アヴァ王国（1364～1555年）：シャン人（「タイ系」）の王国。上ビルマ。

特徴： 上座仏教。パーリ語経典（文字は各言語によって異なる）。サンガ（僧団）の形成。

補足： ビルマではビルマ人の他にシャン人やモン人が勢力を持っていた。

資料： ラーマカムヘン王碑文（1292年）。周達観『真臘風土記』（13世紀）

V イスラーム化した地域・時代（C3）

地域： 東南アジア島嶼部（フィリピンを除く）ほぼ全域

時代： 15世紀以降

概要： 13世紀末、スマトラ北部のサムドラ・パサイが東南アジア最初のイスラーム王国。14世紀末、マレー半島にマラッカ王国が勃興。明の保護下にマラッカ海峡の海上貿易センター。イスラームを受容し、東南アジアのイスラームのセンター。アユタヤと共に「交易の時代」の中心勢力。1511年、ポルトガルがマラッカを占領すると、商業拠点は各地に分散。

ジャワ島のイスラーム化。16世紀、ドゥマック王国。17世紀、マタラム王国。

特徴： イスラーム。アラビア語、アラビア文字。イスラーム。シャリーヤ（イスラーム法）。

補足： フィリピンも南部からイスラーム化（スールー王国）したが、スペインのキリスト教勢力によって南部に押し込められた。ベトナム中部・南部のチャム人もイスラーム化した。

C1~C4「大交易時代」

地域： 東南アジア全域

時代： 15世紀～17世紀中頃

概要： 東南アジア全域と隣接するアジア諸海域に広がる交易活動が活発化した。日本の朱印船貿易、琉球王国の活動、ヨーロッパ人の到来と活動も「大交易時代」のできごとである。

VI 列強により植民地化された地域・時代（D1~D4）

地域： タイを除く東南アジア全域

時代： 17世紀～20世紀中頃。

概要： アジア間貿易が継続。欧米で産業革命が進むと、列強による原材料輸入・生産物輸出先としての東南アジアの植民地化が進展。19世紀末からは各地で民族主義運動が芽生える。

- ・ スペイン：フィリピン（のちにアメリカが支配）
- ・ ポルトガル：東ティモール
- ・ オランダ：インドネシア
- ・ イギリス：ビルマ、マレーシア、シンガポール、ブルネイ
- ・ フランス：ラオス、ベトナム、カンボジア

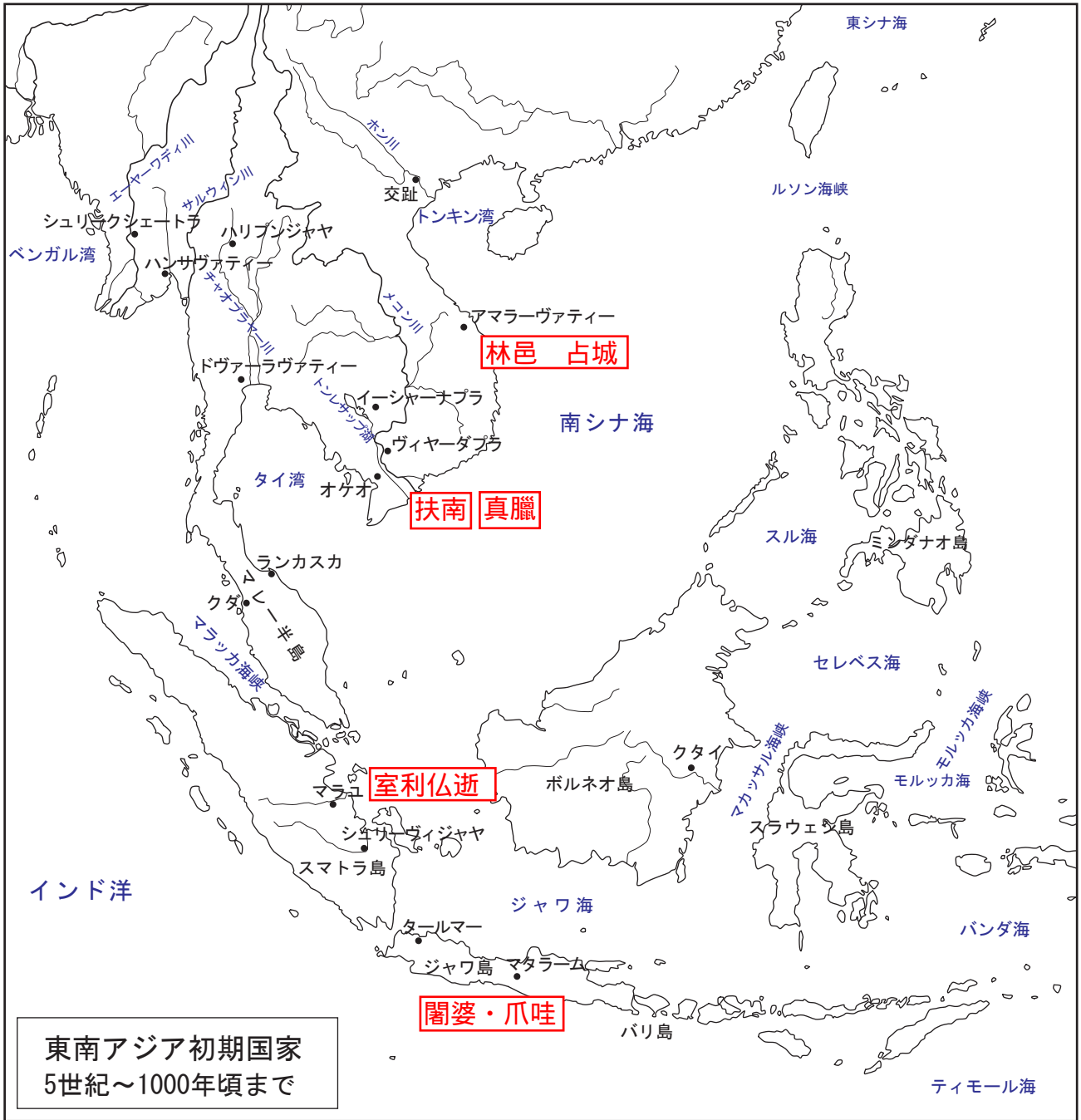
- 特徴： キリスト教（スペイン、ポルトガルはカトリック、オランダ、イギリス、フランスはプロテスタント）。ただし、プロテスタント諸国は布教にはあまり熱心ではなかった。
- 補足： タイは植民地化されず。アジア・太平洋戦争における日本の東南アジア支配（1941～1945年）はセット VI の最終段階とみなせる。

VII 国民国家形成の地域・時代（E1～E4）

- 地域： 東南アジア全域
- 時代： 第二次世界大戦終結（1945年）後（現代まで）
- 概要： 植民地からの独立を達成し、国民国家の建設が進む。世界的な「冷戦」のもと東南アジアではベトナム戦争が1975年まで続く。1967年、ASEAN（東南アジア諸国連合）が創設。当初は5か国。その後、地域協力機構として発展し、2015年、AEC（ASEAN経済共同体）が発足。
- 特徴： 植民地からの独立後、国民国家建設のため、多くの国では、党や軍や大衆動員組織によって国民を統制し、資源を経済開発に注力する強権的な「開発主義」的政策が取られたこれには日本の経済進出も関与。

参考文献

- 青山亨. 2014年. 「東南アジアの歴史を概観してみよう—東南アジア史の構造」今井昭夫（編集代表）『東南アジアを知るための50章』（エリアスタディーズ129）pp.24-36, 明石書店.
- 桃木至朗. 1996年. 『歴史世界としての東南アジア』（世界史リブレット12）山川出版社.



写真の対象は年表の中のどのブロック（A1～E4）に対応するでしょうか？ ver 2.0/2012-05-01

①



②



③



④



⑤



⑥



写真の対象は年表の中のどのブロック（A1～E4）に対応するでしょうか？

⑦



⑧



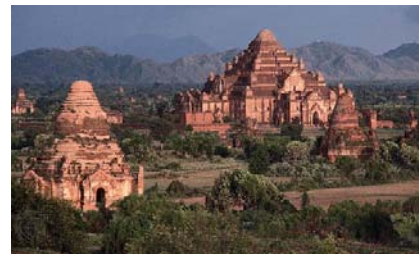
⑨



⑩



⑪



⑫

